

講義			研究指導 機械工学研究1 機械工学研究2	
教養科目	専門科目		主指導教員	アドバイザー教員 (研究指導補助教員)
	基礎科目 <small>※M1前期で重点的に履修すべき科目</small>	選択科目		
M1 前期	弾塑性力学特論 流体力学特論 機械力学特論 機械数理特論 機械製作学特論 機械工学研究1	自分の専門分野から2~3科目、 他の専門分野から1~2科目を選択 ・材料力学 材料強度学特論 計算固体力学特論1 計算固体力学特論2 構造工学特論 損傷制御工学特論1 ・流体力学及び熱工学 流体力学特論1 流体力学特論2 数値流体力学特論 熱流体機械特論 圧縮性流体力学特論 伝熱工学特論 エネルギー変換工学特論 エンジン工学特論 ・機械力学及び自動制御 機械知能特論 マルチボディダイナミクス特論 航空宇宙工学特論1 航空宇宙工学特論2 自動制御特論1 自動制御特論2 生体制御工学特論 画像処理工学特論 ・設計工学 生産工学特論 精密工学特論 表面工学特論 ・機械数理 非線形動力学特論 ・共通 技術経営特論 知財戦略特論 インターンシップ 経営戦略特論	主指導・副指導教員の決定(4月) 研究テーマの決定	
			研究指導 助言	
M1 後期	機械工学研究2		修士論文中間審査会(12~3月)	
M2 前期	機械工学研究3		学会発表	
M2 後期	機械工学研究4		修士論文審査会(2月)	
【修了要件】 修士課程においては、機械工学専攻所定の期間在学し、機械工学に携わる研究者、技術者として求められる高度な学識と研究方法を習得し、研究課題を自ら発見し、解決する能力を持った人材を育成するために編成された授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ修士の学位論文又は特定研究の成果の審査並びに試験に合格した学生に対して修了を認定し、修士の学位を授与する。				

注：大学院共通教育プログラムにおいて、英語、コミュニケーション、倫理、環境などの教養科目が開講されている。積極的な履修が望ましい。



【修了後の進路】 重工業、自動車、重電機、製鉄、鉄道、家電・電子機器メーカーなど(設計、開発、研究、生産技術などの職種) 情報通信、ソフトウェア、電力、ガス、総合研究所など(主に情報系職種) 国家公務員、地方公務員
